

---

# リリカルなのはの世界に転生させられました

やっち

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リリカルなのはの世界に転生させられました

### 【Nコード】

N5509Z

### 【作者名】

やっち

### 【あらすじ】

魔法少女リリカルなのはの転生物です。

技とかは別の作品からもあります。

あ、俺死んだんだ

・・・あれ？

ここは・・・

どこだ・・・

たしか俺って・・・

あ、そうか俺死んだのか・・・

・・・っておい

どうして死んだんだ？

ま、気にしたらだめだよな

起きるか・・・

よっころらっしょ

「・・・」

「やっと目覚めたか若人よ」

「・・・誰だあんた・・・」

その姿はいかにもヲタクのようなメガネになんか、けいおんのキャラのあずにゃんがプリントされたシャツ。  
小太りで足がなく・・・

「つて足がない？」

「そりゃ天界だからね。足がなくてとうぜんだよ？」

そう言われて自分の姿を確認しようとする

「あ、鏡いる？」と言いながら指をならして鏡を出してくれた

いつもどりの姿

よくいるような顔立ちで服も黒いTシャツになんか英語がプリントされ、ジーンズをきていた。

しかし靴は見当たらずに足がなかった

「まあ、天界ならなんか納得できるな。で、あんた誰だ？」

「俺は転生の導師。これからお前を転生させる。」

「なにこのあるあるパターン・・・まあいいや。で、どこに俺は転生させられんだよ？」

「お前が寝ているときにもう決まっている。転生先は・・・」

「転生先は？」

「魔法少女リリカルなのは・・・だ。」

「ほう、なのはか。なら良かったよ」

なのはか・・・なら魔法が必須だな・・・

「それで、まあいまからどうゆう風に生きていくか決めてもらう」

「決めさせてくれんのか？」

「いろいろ条件はあるがな。まあとりあえず気にしないで決める。それが条件に合うかはその都度いう。」

「とりあえず時間と紙とシャーペンくれ。消しゴムも。」

「わかった。」

また指をならして紙とシャーペンと消しゴムをだして俺に渡した。

「・・・出来れば机と椅子も。あと紙2、3枚くれ。」

無言でまた指をならしてだしてくれた。

「時間は2時間もあれば十分だろ？よく考えてよく悩めよ・・・」

「わかった。」

そして導師は消えた

とりあえず考えよう・・・

1」の設定で。

とりあえず転生する上での設定を紙に書いて読み返し修正した。

気がつけば目の前に導師が出てきた・・・

「もう決めたか？」

「ああ、これで。」

俺は紙2枚を渡した

一枚目

名前は適当に

家庭は一般的で貧乏でも金持ちでもないところ

誕生日は早生まれで無ければいつでも

顔はいつ天の月光で優しさのある目に変えた感じに

前世の記憶は八才の誕生日の次の日に思いだす

能力について

魔力はそこそこ

レアスキルは特訓すれば、基本は身につきあとは努力次第

「ほう、なかなか考えたな。ところで疑問があるのだが・・・」

「なんだ？」

「早生まれじゃだめなのか！」

「・・・すこし苦い思いがあるんだ・・・」

「それは苦勞したな・・・」

「まあ二枚目は俺の求めるデバイスだ。」

「ほう。絵がうまいな」

「一応中高で美術部だったからね」

その描かれたデバイスは月光が手にする凶剣こと『スペル・エラー』だった。

スペル・エラー  
凶剣

2000年以上の昔から教会に伝わる、すべての魔力を封印し、被う力を持つ刺突剣のような武器。原作では刃を持たないことになっているが、アニメ版では刃を持っている様。現在は月光が使用する。

剣を突き刺し、呪いをかけて口づけする事で相手の力を封印することが出来る。

また対象の命などを消去することも出来る。



W i k i p e d i a より

「まさかこの力を注ぎ込めとか・・・？」

「流石にやばいっしょ。だから魔の力を被っただけで十分。」

「被っのもやばいっしょ。」

「じゃあ被っついでに己の力に変えるのは？」

「魔力変換ってか？チートデバイスだなww」

「それと刺すのはあれだし斬りつけが出来るように。あと裏にモ―ドチェンジを足したんだけど・・・」

「どれどれ？」

アックスバイザーモード

砲撃モード

「なんと無茶なことを・・・」

「あとスバルやギンガが使うウイングロードとローラースケート的なやつ、標準装備に。あ、魔力光は紫。」

「めんどいからウイングロード無しね。代わりに空中戦に役に立つエアブーストと飛べるようにしとくぞ。」

「ちえつ。わかったよ。」

「それにしても、お前月光好きなんか？」

「まあそれなりに。」

「まあいい。あとカートリッジシステムどうすんだ？」

「あ・・・そーだな。A・Sの途中で導入する予定だから最初無し。原作介入しなくても管理局はいるのは決心してるからどっちみち入れるよ。」

「わかった・・・しかしお前はすこし欲張りだな。」

「そーゆう性格だから。」

「じゃ、転生・・・行きますか！」

「おう。」

すると導師がなんか中に星を書きなにやら唱えだした

そして俺は意識を失い転生した

11の設定で。(後書き)

名前考察中です。

## 楽しみなもの

僕は紅 月光

海鳴市に住んでいて学校は公立ではなく、私立聖祥大学附属小学の二年生です。

もうじき僕の誕生日です

誕生日は12月22日

ちょうど冬至と同じ日なんです

そして学校のクラスメイトであり、親戚で資産家で大きなお屋敷に住む月村すずかちゃんの別荘で僕の誕生日パーティをひらいてもらえることになりました。

月村家と紅家は遠い親戚で僕のお父さんのお父さん、つまりおじいちゃんが月村家のおばあちゃんと兄妹なんだそうです。

おばあちゃんが月村家に嫁入りして関係が出来ました。

つまりすずかちゃんとはとこ・・・なのかな？まだそこまで知らないから説明できないや

それでとりあえず月村家の別荘で誕生日パーティを開いてもらえることになりました。

他にはクラスメイトのアリサちゃんやなのはちゃんが来てくれるそうです。

どうして女の子に好かれるのか？まあ好かれているのはわかりませんが一年生のころから仲良し4人組なんです。

・・・あ、そういやまだ言ってますでした。

僕は一人っ子なんです。

とりあえず誕生日パーティまであと2日、楽しみです！

楽しみなもの（後書き）

主人公の名前がまさかの紅月光というのは名前が思い浮かばなかった・・・という事情だったりする

誕生日の後に（前書き）

全くストーリーに関係ない話が続きます

## 誕生日の後に

さて、ただいま僕の誕生日パーティの始まる数分前・・・みたいな感じですよ

しかしやはりすごい。

なにがすごいのか、それはこんな僕のためにこんな豪華なパーティがあつていいのか、と思う程。

結婚式の披露宴のような机と椅子の数

その机の上にある料理や飲み物

そして普通の直径15cmなんか比じゃないほどデカイケーキ  
もうロウソクに火はついていきます

改めて月村家の凄さを思い知らされる瞬間です。

まあ物心ついたときからこんな感じでしたけど

急に灯りが暗くなりロウソクの火が目立ちます  
そして僕はケーキの前にいきフーッと吹いて火を消しました



するとクラッカーが一斉に何発か鳴り

「「「「「「誕生日おめでとう！……！！！！！！」」」」」

みんなが祝ってくれました

そのあとはみんなで料理を食べたりケーキを食べたり……

プレゼントを貰って僕の誕生日パーティーは幕を閉じました。

誕生日パーティーが終わったあとは家に帰り寝ました。

これから起きることなんて僕には想像はつきませんでした。

誕生日の後に（後書き）

いよいよ月光が覚醒！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5509z/>

---

リリカルなのはの世界に転生させられました

2012年1月11日00時48分発行